

京都で、会いましょう。

ICC

国立京都国際会館

Kyoto

— 2018 Winter —

巻頭インタビュー

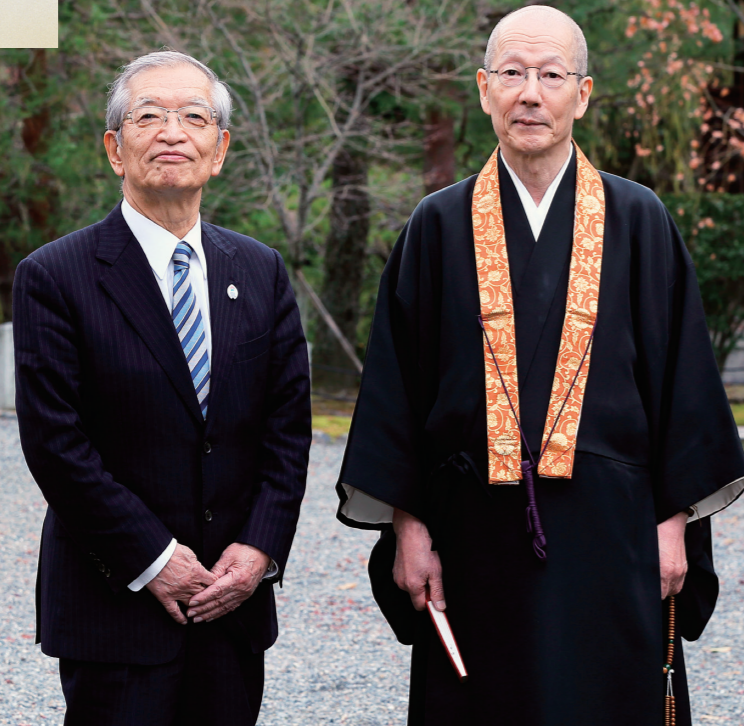
天台宗宗機顧問会会長、妙法院門跡門主、
世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会理事長

杉谷 義純 氏



Kyoto International Conference Center

相手を十分に理解するための対話と 多様性を受け入れることが平和への道



杉谷 義純 氏

天台宗機願問会会長、妙法院門跡門主、
世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会理事長

1942年東京生まれ。慶応義塾大学法学部法学科卒業。大正大学大学院博士課程単位取得。その後、東京大学助教授、比叡山宗教サミット事務局長、天台宗機願問会会長、世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会理事長。2017年6月には三十三間堂本坊妙法院門跡門主第五十二世継任。著書「はじめての法華経」(春秋社)など多数。

強く理解し合わないといけない。宗教サミットでも、背負って出てこられる方はまず自分の正しさを主張し、人の言うことを聞かずに帰ってしまう人も多かった。それを何年も繰り返していくうちに、それぞれがお互いの言うことを受け止めながら話を一歩ずつ進めるようになりました。これがないと対話にはならず、説得だけでは反発が起こってしまいます。やはり、性急に結論を出すのではなく、対話し続けるということが大事です。

木下 確かに、現代では何事にもスピーディーさが求められ、人々も性急な答えを求めがちです。余裕がなくなると、立ち止まっていることにすらも不安を感じて、走り続けたいと安心してられないという面がありますよね。



杉谷 はい。特に現代には情報があふれていますが、その多くが無駄な情報であり、人々は振り回されています。心を落ち着けて止まる、そういう時間がないといけないと思いますね。宗教は祈りを大切にしますが、なぜ祈りがあるかと言いますと、それは、自分というどうにもならない小さな存在が、無限の大きなものに包まれて生かされている、そういうことを感じる時間なんですね。止まって静かにしている心や時間が、人間には必要だと思います。

宗教間の垣根を越えた対話を 京都で行なう意義

木下 杉谷門主は長く平和問題に取り組んでこられ、現在は世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の理事長も務めておられますね。WCRPの目標や活動についてお話しいただけますか。

杉谷 WCRPでは宗教間の垣根を越えた宗教対話を軸にして、人道的平和活動や核兵器廃絶の訴え、地球温暖化問題を考えるための植林活動「いのちの森づくりプロジェクト」など様々な活動を行っています。そして、



比叡山宗教サミット30周年記念世界宗教者平和の祈りの集い(2017年8月3-4日)国立京都国際会館メインホールにて

相互理解や調和を生み出す場づくりとか、教育出来る人を育てるために1年を通じてのカリキュラムや講習会を開くなど、積極的に取り組んでいます。

木下 WCRPは第1回(1970年)と第8回(2006年)を、この国立京都国際会館で開催しました。宗教と平和を考える国際会議を京都で開催することに、どのような意義を見出されておられますか。

杉谷 東京の方が開催するには便利な点もあるかもしれないのに、なぜ京都で会議をやるのかと言いますと、日本が何かということの説明しやすい点があります。外国の人は先進技術のみならず、人間性やその文化を育んできた土壌を大事にしており、その根幹に宗教も関わっています。ですから、京都に来ていただいて近代的かつ伝統的な施設を回っていただくと、まち全体が非常に奥ゆかしく、文化的な伝統に根差したものがあつたのを自然に感じて帰っていける、日本は良いところがあるなと一目置いてくださるんです。逆に我々も外国へ行った時には、そういう姿勢を持って行かなければならないと感じています。

より身近な存在へ 今後の国際会館へ望むこと

木下 昨年夏、比叡山宗教サミット30周年が国立京都国際会館で開催され、杉谷門主がその中心的役割を果たされました。宗教者の方々にもお互いのコミュニ

ケーション、対話を続けていただけるような機会を、国際会館としても今後も引き続きお手伝い出来ればと考えておりますので、是非またそのような場を作っていただきたいと思っています。

杉谷 宗教サミットは、1986年にローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけで世界中の宗教代表者が集い、平和の祈りを捧げたことから始まりました。比叡山宗教サミットはその精神を受け継ぎ、1987年に東洋の日本の聖地・比叡山で始まったのです。やはり京都に、宗教の垣根を越えて集まれる場所があるというのは非常にありがたいことだと考えています。そしてこのような宗教対話を行なう会議場として、またハイレベルな国際会議や学会を行なう場所である一方で、テーマを選ばず幅広いことで国際会館を利用できる環境が整うと、もっと一般の方との距離が近づいてくるのではないのでしょうか。地域住民が自由に語り合える、そういうコミュニケーションが高まるような場にもしていければ、フランクな会話がかわって真実を語る場にもなるのではないかと、このように考えています。

文化を残しつつ調和を 行っていくのが宗教の役割

木下 博夫館長(以下、木下) 昨今、世界的な情勢を見ますと、かなり排他主義的なものが多くなってきています。このような中で、宗教の世界から人々の調和や連携を行っていかねばならないと私も思っているところなのですが、まずは、杉谷門主ご自身、「平和」についてどのようにお考えでしょうか？

杉谷 義純門主(以下、杉谷) 一番難しい問題というのは、それぞれが自分のいる環境や知識で、相手をはかっていくということです。何か1つ大きな動きがあると、それぞれ自分の立場で次の段階を考え、そこに自分達の立場やアイデンティティも加えて主張する気になるんです。そうすると、どちらが正しい、正しくないという摩擦がどうしても起きてしまう。この意識のずれが、平和を脅かすこととなります。ですから、相手を十分に理解しながら少しずつゆっくり進んでいくこと、多様なものを受け入れられるかどうか、平和について一番大事であると考えています。

木下 いまは国際紛争に宗教争いが大義

名分として使われており、他を倒さないと自分たちの幸せが来ないのだということを標榜するような動きもありますが、現代の世界平和に対して、宗教はどのような役割や価値を持っているとお考えですか。

杉谷 日本にいと、宗教の違いというのはそれほど感じません。ですが世界に行けば、宗教が違うということは同時に、民族、言語、食べ物、風俗や習慣といった文化もまた違ってきます。ですから、宗教の教義や正しさよりも、同じ宗教であるか否かで判断をします。民族も言葉も違う者同士が出会うと摩擦が起きます。なぜ紛争が起こっているのかを考えた時に「これは宗教が違うからだ。宗教戦争だ」と言う説明が早いんですね。そのために、宗教は争いに非常に利用されやすい。人々をまとめるために、宗教が使われているんです。

一方で文化とは、それぞれ土着の土地の中から育っていくものです。近代社会はすぐに利便性を追求して機械化、統一化を図りたがりませんが、文化を残して調和をしていくという努力が大切です。これは大変なことですが、政治にはできない、宗教が果たすべき役割がそこにあります。様々な文化の出会いというのは摩擦が生じますけれども、辛抱

今、世界中で起こっている民族紛争、北朝鮮による核・弾道ミサイル実験の脅威など、世界情勢の不安定さは現代社会で大きな議論を呼んでいます。国内外の諸宗教者との対話を重んじ、相互理解と協働で平和運動を推進する世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の理事長を務め、2017年に妙法院門跡門主第五十二世に就任された杉谷義純さんに、世界平和についてお話を伺いました。

インタビュー
国立京都国際会館 館長 木下 博夫

1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長などを経て、2012年3月から館長・常任理事を務める。



待望のニューホール 間もなく誕生!

2018年秋 新しい多目的空間が京都に登場

— 10月1日ご利用分より予約受付中 —



※パースはすべてイメージです

今年の秋、国立京都国際会館に誕生するニューホール。

「既存施設との調和と革新」「豊かな自然環境に協調するデザイン」等を設計コンセプトとする2,000㎡の新空間です。

今回は、展示、イベント、会議、パーティーをともなう企業インセンティブまで多目的にご利用いただける新しい施設の特長と魅力をご紹介します。

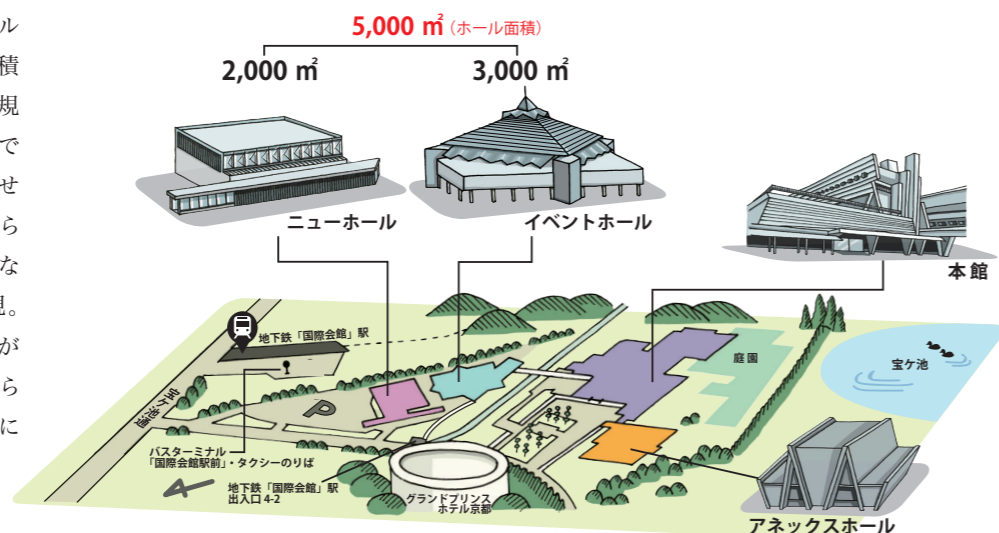
延べ面積：4,500㎡ スクール形式：1,000席
ホール面積：2,000㎡ シアター形式：1,600席
最大収容人数：2,500人 円卓形式：800席
天井高：10.0m

問い合わせ・ご予約

国立京都国際会館 営業推進部
TEL 075-705-1345 (平日 9:00~17:30)
E-mail sales@icckyo.or.jp
公式HP <http://www.icckyo.or.jp/>

4,000名規模の大型催事にも対応

ニューホール(2,000㎡)は、隣接する既存のイベントホール(3,000㎡)との同時利用で、面積5,000㎡の空間として、4,000名規模の大型催事がひとつのゾーンで開催可能です。2館を組み合わせることで、式典や表彰式会場からパーティー会場へスムーズに異なるシーン展開が平面移動で実現。より円滑な運営や印象的な演出が可能です。また、全館利用なら10,000名超の大型会議も快適に開催することができます。



開催地・京都を印象づけるおもてなし空間



既存施設の設計コンセプトを継承し、ニューホールの設計においても洛北の豊かな自然との調和を重視しました。また、建物へと誘う歩廊を「縁側」、ホワイエを「入側」、新たなホールを「お座敷」になぞらえ、日本建築の「場」の構成を意識したストーリーを創出。大空間を有しながら多様な場を感じられる空間構成が、より心に残るイベントを

演出します。パブリックスペースには京都ならではの設えや調度品を施し、さらに、国内外からの賓客の接遇が想定される特別室には京都の伝統産業の技をふんだんにとり入れるなど、日本の伝統文化都市・京都を体感していただけます。来場者に開催地である京都を印象づけるおもてなし空間を実現しました。

【特別室】

- 木や紙、陶板、漆喰など伝統的な素材で内装全体を構成
- 北山丸太の床柱と床板に漆を施した床の間
- 西陣織や京指物、漆を用いた家具
- 貴船石や鞍馬石など京都の石を用いた特別室専用の庭

【パブリックスペース】

- 里山の四季美と水琴窟により迎え入れる庭
- 天板部分に漆を擦り込んだ木製家具
- 伝統産業製品の紹介や情報発信ができる展示ケース仕様のサイドテーブル
- 天板に京焼・清水焼の陶板を用いたハイテーブル
- 京焼・清水焼の壁アート

主な特徴

演出の自由度が高い大空間

本館エリアと区別された独立性が高い専門ゾーンとして、式典・表彰式はもちろん、パーティー、イベント、展示・商談会などの利用を想定した設計です。ホール場内は、シンプルなデザイ

ンを採用。主催者の様々なニーズに対応可能な空間となっています。自由な演出と心を込めた「おもてなし」で、ゲストの心に残る交流の場をご提供いたします。



「えらべる」ケータリングサービス



※写真はイメージです

国際会館では多種多様なスタイルや国内外からの多彩なゲストの趣向に合わせて、オーダーメイドでメニューをお作りしています。ベジタリアンやムスリム、アレルギー対応メニュー等、様々な人々が同じテーブルを囲んでお食事を楽しんでいただけるよう、多様化のご要望にお応えしてまいりました。さらに10月より京都を代表する主要なホテル複数社と提携。主催者の希望により、提携ホテルからサービスを受けられるケータリング制度を導入。会議やイベント、パーティーなどシーンや規模に合わせてご提供します。

「えらべる」ケータリングサービスはニューホールとイベントホールが対象です。

Event Report 開催報告

STSフォーラム 第14回年次総会 2017年 10月1日 - 10月3日



世界中の各界よりの指導者が、科学技術の革新や持続可能な発展などについて考える「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第14回年次総会」が、世界約80の国と地域から約1,400人が出席して10月1日から10月3日までの日程で開催されました。

開会式では、安倍首相が新薬開発などの進展を促す規制改革の実績をアピール。「持続可能な開発」をテーマにした会議では、あらゆるものがインターネットにつながるIoTや環境にやさしい水素エネルギーの推進などに意欲が示されました。また、全体会議には京大IPS細胞研究所の山中伸弥教授もご出席されました。

最終日には皇太子同妃両殿下がご臨席のもと閉会式が開かれ、皇太子殿下は「この会議が世界人類の将来にとって有益なものになることを願う」と英語でご挨拶をされました。年次総会の総括として、エネルギー・資源・環境やライフサイエンス・ヘルスケア・科学技術の連携など、多分野にわたる声明が発表されました。

古典の日フォーラム2017「五周年記念式典」 2017年 11月1日



「古典の日」の制定5周年を記念するフォーラムが11月1日に開かれ、古典の日推進よびかけ人で茶道裏千家前家元の千玄室さんが古典の魅力について語り、出席した市民ら約1,700人が耳を傾けました。

フォーラムでは、京都産業大学日本文化研究所で専任研究員を務める彬子女王殿下が学習院中・高等科時代に『源氏物語』などの古典文学に親しんだ思い出にふれ、「作品の時代背景などを理解することで、思わぬ時間旅行ができる」と話されました。

また、リレートークでは宮田文化庁長官や和紙作家の堀木エリ子さんがおすすめの本を紹介。国際日本文化研究センターの磯田道史准教授とヴァイオリニストの松尾依里佳さんは「私と古典」をテーマに連続講演し、現代に生きる古典の奥の深さなどについて語りました。

古典の日に関する法律は、『紫式部日記』の1008年11月1日の項に初めて『源氏物語』に関する記述が登場するのになんで、2012年に制定されました。

Information Vol.06 ニューホール 建設工事

ニューホールのインフラ設備工事進む

国際会館では、2018年6月末の完成に向けて、多目的に利用できる新しいホールの建設を進めております。

躯体工事がほぼ完了し、外装および内装工事が本格化してまいりました。外観は、ほぼ完成形の大きさ、形が確認できるようになってきました。建築工事では防水や塗装などの外装工事、天井や壁の造作の為の下地や建具の取付などの内装工事が進められています。

建物内の各機械室なども完成し、建物に必要不可欠である電気設備や空調機器を順次、搬入設置しております。



受変電設備設置箇所(電気室)

今後も安全第一で工事を進めてまいります。引き続き本工事につきましてご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

※今後も、このコーナーでは、ニューホール建設工事の様子をお知らせしていく予定です。



▲現在の本館側からみたニューホール

駐車場のご利用について

工事期間中は駐車場のご利用を制限させていただきます。(詳しくはホームページをご覧ください)ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

Event Calendar

2018年 2月 → 5月

催事名	日程
Pick Up 近畿薬剤師合同学術大会2018	2月 3日 - 4日
第56回関西財界セミナー	2月 8日 - 9日
第9回「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式	2月 10日
淡交会青年部ナショナルコンファレンス2018	3月 2日 - 3日
第18回日本糖尿病療養指導士認定試験(平成29年度)	3月 4日
第68回日本木材学会大会	3月 15日
第8回言の葉大賞 授賞式	3月 24日
桜・さくらスペシャルデイズ2018	4月 7日 - 8日
国際ロータリー第2650地区2018-19年度地区研修・協議会	4月 15日
Pick Up 第16回アジア泌尿器科学会 第106回日本泌尿器科学会総会	4月 17日 - 21日 4月 19日 - 22日
第65回(平成30年春)宝松庵茶会	4月 30日
第26回日本乳癌学会学術総会	5月 16日 - 18日
第2回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会	5月 26日 - 27日

Pick up ピックアップイベント

近畿薬剤師合同学術大会2018 2018年 2月3日 - 4日

近畿薬剤師合同学術大会が、2018年2月3日から2日間の日程で開催されます。同大会は、新しい知見や業務改善成果を発表・討議することで、学術・技術の向上を図る情報交換の場として約5,000人が参加予定です。京都が担当するこの機会に、第39回日本病院薬剤師会近畿学術大会と、第20回近畿薬剤師学術大会を合同とし、メインテーマを、「地域に生きる薬剤師～ともに羽ばたこう!未来のステージへ～」としました。

講演、シンポジウム、ワークショップを通じて地域において医療機関と薬局が連携して、高度急性期医療から急性期、回復期、療養、在宅へと薬物治療を途切れなくつないでいく役割が期待されている今、薬局・薬剤師として直面する様々な課題について議論を深めます。

第16回アジア泌尿器科学会 第106回日本泌尿器科学会総会(合同開催) 2018年 4月17日 - 22日

第16回アジア泌尿器科学会と第106回日本泌尿器科学会総会が2018年4月17日から合同開催されます。アジア泌尿器科学会の日本開催は1990年の福岡大会以来28年ぶり。同時開催を機に世界におけるアジア、アジアにおける日本の立場を再認識するため、共通テーマを「Discover Tomorrow of Urology:泌尿器科の未来をつかめ」、サブテーマをそれぞれ「Message From Asia to the World」「日本からアジアへのメッセージ」としました。アジアの21カ国から約8,000人が出席予定。6日間の学術集会では医療技術の進展やグローバル化の中で進む様々な課題について討議、最終日は卒後教育プログラムビデオ講習会が開催されます。

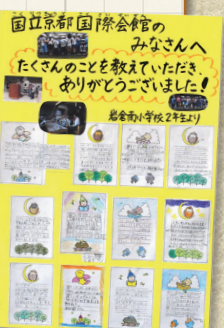
Topic ICC Kyoto 見学会 京都市立岩倉南小の2年生が元気よく来館 2017年 9月25日



生活科の学習「町たんけん」の一環として京都市立岩倉南小学校の2年生が9月25日、元気に来館しました。児童らは国際会議室の会議室やパブリックスペース、回遊式庭園などを興味深い様子で見学しました。

「町たんけん」は校区にある公共施設や店舗などを見学して、それぞれの施設の役割や機能を調べる学習の取り組みです。地域の魅力を知り、地域への愛情を育むねらいで、京都を代表するコンベンション施設である国立京都国際会館を訪ねました。

参加した児童らは、メインラウンジやRoomAを見た後、メインホールで開催中の会議の様を生中継で鑑賞。質疑応答で「国際会館はいつできましたか」「どのような人が来られましたか」などと活発に質問。1966年に日本で初めて建てられた国立の会議場であることや各国首脳やノーベル賞受賞者が多数来館していることを知り、驚いたり、感心したりしていました。



京都で、
会いましょう。

京
Kyoto
の
おもて舞台うら舞台

歌舞伎の祖・阿国が踊った「北野天満宮」



社殿【国宝】

学問の神様・菅原道真公を祀り、全国に約1万2000社ある天満宮の総本社である北野天満宮は、受験の合格祈願をはじめ、厄除けや縁結びなどのご利益でも知られ、多くの信仰を集めています。天神信仰発祥の地である北野天満宮ですが、実は、歌舞伎の創始者とされる女性・出雲の阿国とも縁深い場所だということを、皆さんはご存知でしょうか。

1603(慶長8)年、出雲大社の巫女を名乗る阿国は、芝居小屋が並び立つ鴨川の河原で、奇抜な男装で茶屋遊びの様子を踊る「かぶき踊り」を披露し、都人を驚かせました。阿国は北野天満宮に当時では珍しい定舞台を設けて興行を行い、名声を高め、各地を巡業しながら人気を広げていったと伝わります。今日ある歌舞伎の源流となった場所こそ、この北野天満宮なのです。

北野天満宮には、「北野大茶湯」を開催し庶民にお茶を振る舞った豊臣秀吉公の太閤井戸や、息子の秀頼公が造営した壮麗な社殿(国宝)、絢爛豪華な彫刻が施された三光門(重要文化財)など、数々の歴史的遺構が残っています。また、京都随一の梅の名所としても知られ、早春には紅白の梅の花が境内を華やかに彩ります。境内の西にある史跡・御土居では、初夏には涼やかな青もみじ、秋には鮮やかな紅葉アーチといった四季折々の美しい景観を楽しめるほか、毎月25日に開催される「天神市」など、年間を通じて見どころが満載なのも魅力です。訪れる際は、参拝とともに四季の光景と歴史散策も合わせてお楽しみください。

アクセス・京都市上京区馬喰町

市バス「北野天満宮前」下車

参拝時間・【楼門】「4〜9月」5〜18時、

「10〜3月」5時30分〜17時30分

【社務所 授与所】9〜17時

※季節・行事によつて変動あり

拝観料・境内自由参拝

電話・075(461)0005



出雲の阿国像(四条大橋東詰)



梅花祭野点大茶湯(毎年2月25日)



三光門【重要文化財】